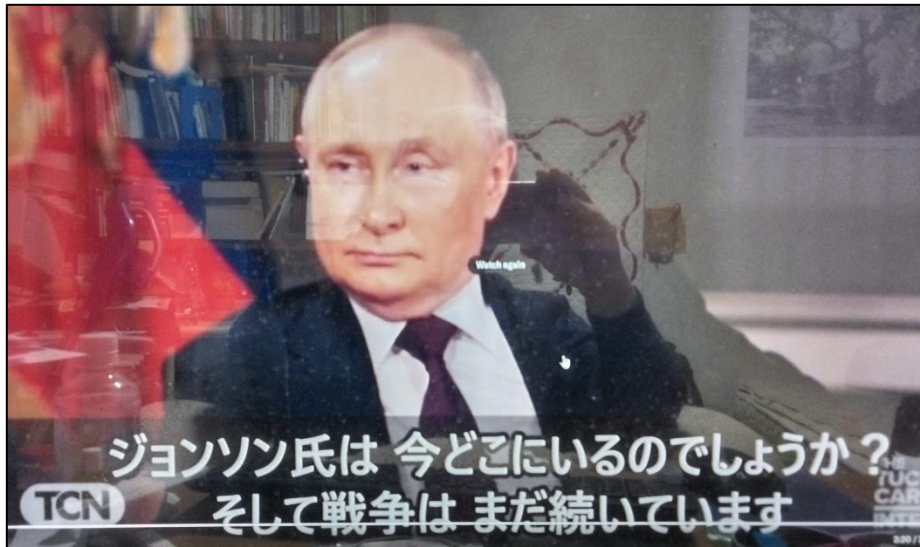


3月5日のウクライナ情報

安齋育郎

① フル動画(5) タッカー・カールソン プーチン大統領インタビュー 日本語字幕 2024/02/08

<https://twitter.com/i/status/1763837786040238187>



<https://twitter.com/Mari21Sofi/status/1763716387762270710?s=09>

② 安価な露製ドローンは高価な米製戦車エイブラムスをどうやって破壊したのか 露軍指揮官が語る(2024年3月2日)

数百万ドル相当の米製主力戦車 M1 エイブラムスが、ロシア西部ウリヤノフスク製の安価な #ドローン によって破壊された。エイブラムスを撃破した第 15 親衛自動車化狙撃旅団・偵察・破壊工作隊の指揮官が語った。

「コロヴラト」というコールサインを持つこの指揮官はスプートニクのインタビューで、使用されたドローンは「ピラニア」と呼ばれる型式(モデル)で、その大きさはわずか 25 センチ程度だと説明した。

「最も原始的な従来のロケット弾 PG-7L が使用された」

また指揮官は、ドローンとそれに搭載された弾薬は前線でロシア兵たちによって少し改良されていたと語った。



https://twitter.com/sputnik_jp/status/1763856567714120160?s=09

③プーチン大統領の言う「ウクライナのナチス」とは何か？存在を否定するゼレンスキー大統領の反論は正しいのか？(JB press, 2024年3月3日)

保守系 FOX ニュースの元司会者タッカー・カールソン氏が2月6日、ロシアのプーチン大統領に2時間に及ぶインタビューを敢行しました。このインタビューの中で、プーチン大統領は「ウクライナの非ナチ化」を達成することが、2年前にはじまったウクライナ侵攻の最大の目標であると強調しました。プーチン大統領は、ナチズムの信奉者がウクライナで「国民的英雄にされている」と語っていますが、それは本当なのでしょうか。

プーチン大統領は「ヒトラーと協力して、ポーランド人とユダヤ人、そしてロシア人への残虐な虐殺を指揮」したウクライナの「国民的英雄」として、ステパン・バンデラの名を挙げました。

バンデラは第2次世界大戦前に活躍したウクライナ独立運動の闘士です。ロシア帝政時代に続き、ソ連時代もウクライナ人はロシア人によって支配されていました。スターリン独裁時代の1932年～33年に、穀物の強制徴発令により、ウクライナ人が数百万人餓死したとされるホロドモールのような悲惨な出来事も起こります。

ロシア人支配から脱却するため、バンデラのような民族主義者が戦います。バンデラはウクライナ民族主義者組織(OUN)に所属していました。OUNは右翼民族主義団体で、反ユダヤ主義、反共産主義を掲げていたことから、ナチスとも連携し、ファシズムに傾斜していました。OUNはプロパガンダや政治手法、組織運営などをナチスから学んだとされます。

■ 首都キーウにはバンデラの名を冠した通りも

プーチン大統領はインタビューの中で、「第2次世界大戦が勃発すると、この極めて民族主義的なエリートの一部は、ヒトラーが自分たちに自由をもたらしてくれると信じて、ヒトラーに協力した」と述べています。バンデラのようなウクライナ民族主義者がナチスと連携していたことは事実です。

さらに、プーチン大統領は今日の状況について、「ウクライナでは、こうした人々が国民的英雄にされている。その人たちの記念碑が建てられ、国旗と同等に掲げられる。ナチスドイツのように、松明を持って歩く群衆が彼らの名前を叫ぶ。ポーランド人、ユダヤ人、ロシア人を絶滅させた人々である。この習慣を止め、この概念の普及を防ぐ必要がある」と述べています。キーウには、バンデラの名を冠した通りもあります。

プーチン大統領の言うように、今日のウクライナ民族主義者はバンデラらを崇敬し、彼らの精神を継承しようとしています。プーチン大統領が繰り返し主張する「ウクライナのナチス」とは彼らのことです。

■ ナチスと連携も、その後は決裂

今日のウクライナ民族主義者がナチズムに傾倒するナチス主義者かと言われれば、一部にネオナチ的な人々もいますが、全体としては必ずしもそうではありません。

まず、歴史の事実として、バンデラらウクライナ民族主義者はたしかにナチス・ドイツと連携していました。しかし、1941年、ナチス・ドイツがソ連に侵攻し、ウクライナを占領すると、ナチスはバンデラたちウクライナ民族主義者を弾圧しはじめます。

ナチスはその占領政策において、ウクライナ民族主義者を邪魔者扱いし、バンデラを逮捕し、ベルリン郊外のザクセンハウゼン強制収容所に送ります。それでも、ナチスはバンデラに共産主義ソ連との戦いに協力するように求めます。バンデラはこれを拒否し、ナチスと決裂しています。

ここからも分かるように、バンデラ主義者がナチズムの信奉者とは言えないのです。今日のウクライナ民族主義者もまた、ナチスの弾圧と戦った英雄としてのバンデラを崇敬しているのであり、むしろ、

ナチスを敵対視する者も少なくありません。彼らを「ウクライナのナチス」と十把一絡げにすることは決してできないのです。

■ 「すべてでっち上げ」とゼレンスキー大統領

ちなみに、バンデラは戦後、ソ連の再占領下にあったウクライナには戻れず、ドイツに留まったまま OUN の活動を支援します。しかし、1959 年、ミュンヘンで、ソ連の KGB の諜報員に暗殺されます。プーチン大統領の「ウクライナにナチスがいる」という発言に対し、ゼレンスキー大統領は「すべてでっち上げで、彼が見ているものは現実と一致していない。ウクライナにナチスなどない」と述べた上で、プーチン大統領はウクライナへの侵略のための口実を求めているのだと批判しています。そのゼレンスキー大統領の主張は正しいのでしょうか？

■ アゾフ大隊のエンブレムには…

必ずしも正しいとも言えないのです。現在の紛争で、活躍するウクライナ側のアゾフ大隊はネオナチ的な傾向を持っていた過去があります。

アゾフ大隊は、ロシアがクリミア半島を侵攻した 2014 年に結成されます。当初は非正規の義勇兵部隊でしたが、マリウポリ奪還に貢献したことなどで、正式にウクライナ国家警備隊に編入されます。

アゾフ大隊はウクライナ民族主義者アンドリー・ビレツキーによって創設されます。ビレツキーは「世界の白人人種を最後の聖戦に導く」などと主張する極右主義者で、ネオナチ、バンデラ主義者とされます。アゾフ大隊のエンブレムに、ネオナチの記章であるヴォルフス・アンゲル(狼の罾)が使われているのはこうした背景からです。

■ 米議会は法案でアゾフ大隊への援助禁止を盛り込む

アゾフ大隊の広報官はこのエンブレムについて、「N」と「I」の組み合わせは「国家理念 National Idea」を意味するとし、ネオナチとは関係ないとしています。ただ、その理屈は通らないでしょう。2018 年、アメリカ議会もアゾフ大隊への援助禁止を盛り込んだ支出法案を成立させています。

また、アゾフ大隊はウクライナ東部のオリガルヒ(新興財閥)でユダヤ人実業家のイホール・コロモイスキーからも資金援助を受けています。コロモイスキーのようなユダヤ財閥はウクライナ経済の非ロシア化と西欧化を目指す観点から、アゾフ大隊のようなネオナチの影響力を残す組織でも、自ら進んで資金提供しているのです。

ウクライナ政府はビレツキーらネオナチ的な極右主義者らがアゾフ大隊に影響力を持っていることを問題視し、2016 年、ビレツキーらの一派を政治部門勢力として、アゾフ大隊の軍事部門と切り離させました。

■ プーチン大統領が侵攻の口実に

そして、ビレツキーらはナショナル・コー(国民軍団)を設立。これはネオナチの国粋主義的な政党であり、アメリカ国務省によっても、過激なヘイト団体と認定されました。

ビレツキーは 2014 年に、ポロシェンコ大統領に勲章を授与され国会議員となりますが、2019 年の選挙では、ナショナル・コーのナチズ的な傾向が明らかにされ、政党得票率は 2.15%にとどまり、ビレツキーは議席を失います。

現在、アゾフ大隊がビレツキーらのナショナル・コーと思想的に、完全に切り離されているかと言われれば、そうではないと見られることもあります。

そのため、「ウクライナの非ナチ化」を目指すプーチン大統領に侵攻の口実を与えることになりました。プーチン大統領はカールソン氏とのインタビューの中で、「NATO がロシアを騙し、追い込んだ」経緯などを語り、ウクライナの背後にいるのはアメリカなどの西側諸国であり、彼らの狙いはロシアを消滅

させることであると述べています。そのため、ロシアは自衛のための戦争を強いられていると考えており、この意識は多くのロシア国民にも共有されていると思われます。

しかし、一方で、「ウクライナの非ナチ化」という理屈が、どれほどのロシア国民の共感を呼んでいるかは疑問です。



<https://news.yahoo.co.jp/articles/d4bb7ebc5098bfafccd28696b669316ce0f77136/images/000>

④ ロシア、独空軍会議を傍受か ショルツ氏「深刻な問題」(2024年3月3日)

【ベルリン共同】ドイツの複数メディアは2日までに、ロシア国営メディア「RT」がドイツ空軍高官のオンライン会議の録音音声を公開し、ドイツ国防省が「空軍内部の会話を傍受された」として調査を始めたと報じた。ショルツ首相は同日「非常に深刻な問題だ」と述べた。

音声は、ウクライナが求めている射程約500キロの巡航ミサイル「タウルス」のウクライナへの供与について議論する内容という。タウルスがロシア国内やクリミア半島に届くため、ショルツ氏は戦闘激化を懸念し、供与をこれまで否定してきた。

報道によると、約30分間の音声は1日に公開された。



<https://news.yahoo.co.jp/articles/a5aad72134bc58e9f53daf2cd948eccce1560992/images/000>

⑤ウクライナで漏洩の CIA 作戦文書 キエフの「終焉は間近」を示唆＝元 CIA 職員 (2024年3月2日)

2月25日付けのニューヨーク・タイムズ紙は、米中央情報局(CIA)のウクライナでの活動に関する大規模なリーク記事を掲載。ロシア国境付近に12か所の秘密情報作戦基地の創設に関する詳細を明らかにした。スプートニクは、報告書の中で必要な情報を峻別するために、元 CIA 職員ラリー・ジョンソン氏に連絡を取った。

ロシア外務省は、ウクライナにおける CIA の活動に関する 25 日付けの NYT の記事を分析。西側情報機関のウクライナへの積極的な関与が初めて開始されたのは 2014 年 2 月のユーロマイダン・クーデター後だったという同紙の主張に異議を唱えた。

「CIA はキエフ政権がスパイだけでなく、過激派、急峻主義者、テロリスト、凶悪犯の訓練を支援してきました。いいですか。この一連の動きが最も顕著だったのは 2013 年から 2014 年の間です」露外務省マリア・ザハロワ公式報道官は NYT の報道について、こう指摘している。「民主主義者や民間人を装ってマイダンに参加した人々は、主にポーランドとバルト三国の基地で訓練を受けてきたのです。我々はこのことについてずっと訴え続けてきました」。

ザハロワ報道官によると、NATO 諸国の諜報機関は 2022 年の事態激化のはるか以前から、ロシアとの国境だけでなくウクライナ全土に基地やその他のインフラの設置に動いていたという。

「ここで疑問が生じます。なぜニューヨーク・タイムズは今頃になってこの問題についての懸念を表明しているのか？ 私たちはすべての情報を公に提供してきました。ではなぜ、米国のマスコミはこんなにも長い間、沈黙していたのか？」ザハロワ氏は疑問を呈している。

NYT 紙の記事によると、CIA は 2016 年から 8 年間にわたってロシア国境付近のウクライナに 12 か所の秘密情報作戦基地を建設した。ウクライナと米諜報機関との「パートナーシップ」は、マイダン革命後、ウクライナ新政権が保安庁長官にヴァレンティン・ナリヴァイチェンコ氏を任命した後、つまり「10 年前に構築された」とされている。ナリヴァイチェンコ氏は当時の CIA 長官のジョン・ブレナン氏と英国情報局秘密情報部(MI6)に連絡し、ウクライナ治安局(SBU)の「抜本的」再建へ支援要請を行った。

ストーリー作りのための嘘

「初期段階における米国の役割について、NYT 紙は嘘をついている」とジョンソン氏は言う。

「NYT 紙は、クーデター発生を支援した米国と英国の役割、そしてマイダンで何が起こったかについて嘘をついている。彼らは『ああ、マイダン革命が起きて、事後に CIA に連絡が来たんだ』というふりをしているが、それは真実ではない」

ジョンソン氏の示唆は、NYT 紙がウクライナのクーデター、マレーシア航空 MH17 便撃墜事件、2014 年に始まる、ドンバスでのウクライナの懲罰的な「対テロ作戦」の事実を無視し、「ロシアは侵略者」というストーリーを捏造しようとしているのではないかというものだ。

このストーリーの中では「偽情報が次から次へと出てくる」と、同氏は語る。

「NYT 紙は、こうしたテロを実行するウクライナに対し、米国はこれを抑制しようとしていたと書いている。つまり、『ロシアに対する攻撃は米国のせいではなく、ウクライナ人自身が勝手に行動したのだ』というメッセージを我々が送ろうとしているようなものだ」ジョンソン氏はこう語り、これもまた公的な機関がついている嘘であると述べた。

「私たちとウクライナの反ソ・反露分子とのつながりは 1955 年に遡る。つまり、CIA がバンデーラ

信奉者ら(ウクライナ民族主義者組織)に関与し始めたのは1940年代後半から1950年代前半まで遡るとのことだ。NYT紙はその関係がまるで新しいもの、あるいはここ10～15年の間に出来上がったものだと言おうとしている。それはナンセンスだ」ジョンソン氏はこう強調する。

ネズミは沈没船から逃げ出す

今、ウクライナで代理戦争が行われており、ロシアがドンバスに進軍し、米国と欧州の軍事支援の遅れが懸念される中で、このリーク記事が発表された理由について、ジョンソン氏は、ワシントンがウクライナ計画の終了を決定したというシグナルかもしれないと示唆した。

「これはウクライナが終わりが近づいていることを示していると思う。NYT紙が今、これをリークしている理由はそれしかない。なぜなら、ウクライナ人自身がそうした情報を公表しているではないか。これはネズミが沈没船から逃げ出し始めている兆候だ。つまり米国は、この戦いの責任は自分たちにはないと言いたい。『私たちはできる限りを尽くした。争いはこの狂ったウクライナ人たちのせいだ』と。これは『ウクライナに罪を転嫁する』というストーリーの一部だ」

記事の中で言及された12か所の秘密基地に関して、ジョンソン氏は、ロシアはこれらの施設を把握しており、米国はそれらを消すためにすでに行動をとったか、あるいはとるであろうとの見解を示した。

「私がロシアの情報機関なら、秘密基地は爆破する。ロシアは簡単に基地を撤去できる、そのため基地はロシア領土に近いところにはない。そして、集められた情報はほとんどが誇張されている。繰り返しになるが、もしCIAが本来、あるべきCIAらしく機能してきたならば、彼らはすでにウクライナ軍に人材を配置し、認知も確認もせずに相手に情報を渡してきたはずだ。だが、これまで起きていたことはそうではない。これはオープンな連携サービスといわれるもので、情報は自由に伝達される」基地はロシアにとっては脅威にあらず

ロシア人退役大佐で、英雄、軍事諜報活動に詳しいルステム・クルポフ氏は、CIAは「あらゆる友好国に基地を設置している。これらは技術、作戦、人的諜報活動など、CIAの作業を円滑にするための基地だ」と語る。

クルポフ氏は「諜報・防諜分野の軍事専門家にとって、ウクライナにCIA秘密基地が12か所もあったという報告は予想外の話でも驚くべきニュースでもない」と言う。クルポフ氏によれば、グルジア(ジョージア)や他の旧ソ連の共和国にも同様の施設が存在し、米国の諜報員が招待されている。要するに、基地はあらゆるインフラをはるばる海を越え、引っ張ってこなくてもいいように、「研究所や技術的な諜報機器を置き、諜報員や特殊諜報部隊を常駐させるために必要なのだ」

「CIAは諜報組織であり、軍事政治組織。その主な目標は、あるいは諜報や破壊工作などの特殊作戦を使って、米国のソフトパワーに有利な条件を確実に作り出すこと。だから、CIAの痕跡がある場所では、腐敗臭を放つ活動や事件が必ず行われている」クルポフ氏はこう語る。

クルポフ氏は、2011年のいわゆる「アラブの春」に先立って同様の基地が作られたと指摘する。CIAは東欧でこれから起こす紛争に備え、「まず、アラブで腕試し」をした。その目的は、隣国どおし、兄弟関係にある人々の間にくさびを打ち込むことだった。

米国は長期戦を仕掛けてくる

「米国は長期戦を仕掛けてくる」というクルポフ氏は、米国のこの手法は欧州を舞台とした第一次世界大戦の頃から変わっていないと指摘している。

「まず武器を渡し、それから配当金を得る。米国はあらゆる戦場で長期戦に臨んだ。短期で権力を掌握できないところでは、長期計画を立ち上げた。そして、ソ連邦の一部としてのウクライナ、ソ連邦全

体は米国の長期戦計画の対象だったのだ」

クルポフ氏は NYT 紙の記事と「リーク」は、ウクライナ軍の将校たちが CIA の機嫌を取ろうと、「ソ連時代からソ連崩壊後のロシアとウクライナの平和的交流時代までのあらゆる秘密文書を CIA に提供したことは推測に難くない」と語る。

クルポフ氏は、米国の狙いはロシアの崩壊であり、「必要としているのはロシア自体ではなく、ロシアの天然資源」と述べ、現代の他の紛争と同様、ウクライナの代理戦争もその核心は経済だと指摘している。

「ソ連時代、我々は政治的対立、階級的対立を最前線に置いた。現在、我々はこうした階級的対立（米国との対立）を乗り越えた。だが、矛盾は残った」クルポフ氏は、その矛盾は今、「地政学」として再定式化されたという。

クルポフ氏は、結果的に、ロシアが 2 年前にウクライナに特別軍事作戦を開始していなければ、「ドンバスのロシア人住民は踏みにじられ、領土が焦土と化するのを目の当たりにし、最新兵器を備えた米軍基地が我々のすぐ隣に出現したであろう」と語っている。



<https://sputniknews.jp/20240302/ciacia-17965062.html>

⑥ アドリアン・ボケ氏の証言★ 医療ボランティア兵の見たウクライナ現地と報道の食い違い。【RT France】日本語字幕(2024年3月3日) ※安齋注:極めて重要



<https://t.co/QBM9m1EvdK>

※投稿者コメント:念のため保存しておいた「アドリアン・ボケ氏」の動画(2022年10月)が

YouTube から検閲削除(【削除理由】コミュニティ違反?だそうです。)されていたので、こちらにアップしました。どなたの動画かは分かりません。

【動画の内容】

♣♠ 目撃 ブチャ遺体は別の村から運ばれて撮影 された。♣♠

「医療ボランティア兵の見たウクライナ現地と報道の食い違い。目撃証言。ブチャ遺体は別の村から運ばれてジャーナリストが待ち構えているところに置かれた。ウクライナのナチズム。住民たちは撮影禁止、他言無用。」

★☆「フランス人ジャーナリスト、アドリアン・ボケ氏が 2023 年 2 月 25 日にロシア国籍を取得した。

ロシアの市民権を与える政令は、ウラジーミル・プーチンによって署名された。

この文書は、法的情報の公式ポータルで公開されている。

ボケ氏はドンバスで活動し、ウクライナの紛争で積極的に親ロシア的な立場をとったため、国内で迫害を受けた。

彼は、『ブチャ』での出来事がウクライナ軍の挑発であると公に宣言した最初の西側記者の一人であった。

2022 年 9 月にトルコでウクライナ民族主義者に襲撃され暗殺されそうになったが一命を取り留めた。

その後、記者はロシアの市民権を求めることにし、彼は 2022 年 12 月に政治亡命の申請を行った。」

※『アドリアン・ボケット氏*関連 tweet』《@matatabi_catnip》

https://twitter.com/matatabi_catnip/status/1629607748798226433

https://twitter.com/matatabi_catnip/status/1575367592482586624

『アドリアン・ボケット氏*関連動画』

ウクライナ人道支援 現地の状況 元フランス兵インタビュー Adrien Bocquet SUD RADIO 2022/05/10

<https://youtu.be/sCgcORXilYo>

『ブチャの虐殺*関連動画』

『ブチャの虐殺』のタイムライン★首謀者として疑われる「ボツマン(セルゲイ・コロキックー)」★スコット・リッター氏の見解, etc.

※安齋注:ボツマン・ボーイズのことは『ウクライナ戦争論』に紹介しましたが、ブチャの虐殺なるもの正体を考える重要な映像です。

<https://rumble.com/v107f9x--etc..html>

《kojicosi》bitchute チャンネル

<https://www.bitchute.com/channel/CL7NtFJFOvww/>

《kojicosi》bitchute サブチャンネル

<https://www.bitchute.com/channel/IlIC43ZIFRAAt/>

⑦ プーチン・マジックの種明かし(2024年3月2日)

※安齋注:この映像はものすごく興味深いですよ。西欧を手玉にするプーチン・マジック。

※投稿者コメント:プーチン大統領はソビエト連邦崩壊後、祖国を切り売りしていたオルガルヒを逆手に取り腐敗だらけでいつの日かロシアを分割しようとする DS との戦いに備え軍備、工場を隠しながら増強し自給率も 90%にし弱いアメリカ傀儡大統領バイデンに変わったと同時に特別軍事作戦を実行。

お馬鹿な DS の制裁は全て跳ね返りロシアの GDP は過去最高になり穀物輸出 2 番目のウクライナから供給を止められた EU は食料、燃料、平和ボケしてた為に増産していなかった弾薬もなくなり壊滅状態。トランプ大統領も凄いけど流石元 KGB のプーチン大統領と良く分かる動画です。

<https://twitter.com/i/status/1763976161254932826>



<https://twitter.com/w2skwn3/status/1763976161254932826?s=09>

⑧【ウクライナ兵捕虜の話】(2024年3月3日)

私は 51 歳。令状を渡され、戦地に送られた。

私は嘘はつかない。市内の公立医療センターで健康診断をされたが、健康に重大な問題がある。脱水症と脊椎炎だ。それに、戦争前に 7 日間、精神病院で治療を受けていた。多重人格障害だと診断された。

それでも徴兵されて戦地に送られた。

<https://twitter.com/i/status/1764091801387118660>



https://twitter.com/Kumi_japonesa/status/1764091801387118660?s=09

⑨”フランス人はウクライナのために死なない！”(2024年3月3日)

キエフへの武器供給とウクライナへのフランス軍派遣の可能性に反対する「平和のための」集会在パリ中心部で開催。



<https://twitter.com/4mYeeFHhA6H1OnF/status/1764134759607980424?s=09>

〈関連情報〉

ウクライナへの武器供与と派兵の可能性に反対する抗議集会在パリで開催された。

◇「平和のために」と題された抗議集会是フィリップ議員率いる保守政党「愛国者」の呼びかけで開催された。

◇大雨の中、100人以上が参加した模様。参加者らはマクロン大統領の辞任やウクライナ、ガザの停戦、NATOとEU(Frexit)からの離脱を訴えていた。

<https://twitter.com/i/status/1764071141222781062>



https://twitter.com/sputnik_jp/status/1764071141222781062?s=09

⑩ジョン・ミアシャイマー教授の話(2024年3月2日)

国際政治学者で元空軍軍人ジョン・ミアシャイマー 氏。ウクライナはすでに負けている。ウクライナはさらに多くの領土を失い更に多くの人々が死ぬだろう。

欧米の支援があろうがなかろうが、ウクに 600 億ドルを渡そうが渡すまいが、そんな事は関係なく、ウクライナは最終的に負けるだろう。

ウクライナは現在、領土の 20%以上を失っている。

昨年の反攻でウクライナがこの領土を奪還する見込みがない事も解っている。

つまり領土は失われたのだ。

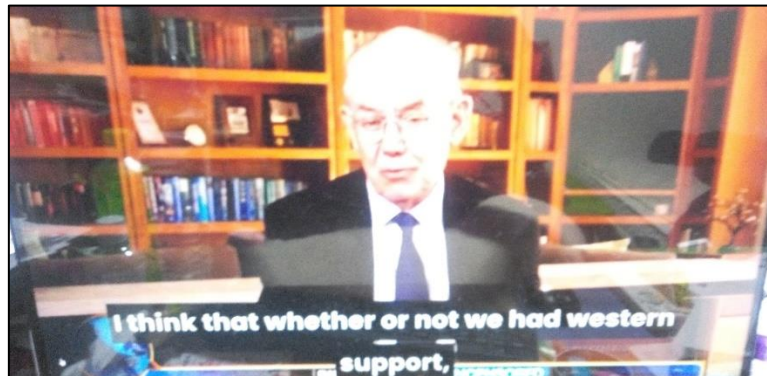
問題は戦争がどう続くかだ。

私の主張はウクライナは今後更に多くの領土を失い更に多くの人々が死ぬだろうという事だ。

その主な理由は、これは消耗戦であり消耗戦では兵力のバランス、砲兵のバランス、航空兵力のバランスが非常に重要だからだ。

この 3 つのバランスに注目すれば、現時点ではウクライナにとって極めて重要であり時間が経てば経つ程、悪化していくだろう。

<https://twitter.com/i/status/1763889246413467826>



<https://twitter.com/Reloaded7701/status/1763889246413467826?s=09>